

2025年5月18日 復活節第5 John.13:31-35 「互いに愛し合いなさい」

私たちが生活する中で、いま大切な物は何でしょう。それが無ければ買い物も出来ないし、電車にもバスも乗れない。少し前ならそれはまずお財布です。または定期やカードを入れた、パスケースかも知れません。これを忘れて家を出ると、みんなあわててすぐ引き返しました。

20年くらい前から、私たちは携帯電話を合わせて持ち歩くようになりました。そして今ではそれが一つになるスマートホンが出来ました。たったこれだけで時計、カメラ、電話、テレビ、ゲーム機、メモ帳、外国語自動翻訳機になります。銀行口座とも繋がり、クレジットカードも使えます。バスでも電車でも新幹線も飛行機も乗れます。コンサートのチケットも購入して、これだけで入場出来ます。

55年前の日本では、想像も付かない未来に、私たちは生きています。1970年の夏休みに、私は父親の運転する車で、8時間かけて大阪の万博に行きました。けれども憶えているのはうんざりする人混みと、台湾パビリオンで食べた、信じられないほど美味しい中華料理だけです。

混雑を避けるために、今回の万博ではスマートホンで多くの予約が行われます。けれどきっとどこかで混雑による混乱が起こります。確かにスマホは私たちの生活を大きく変えました。色々便利になりました。知りたいことがあれば私たちはすぐにスマホで検索をします。するとAIがたちまち答えてくれます。

<AI は Artificial Intelligence の略で、日本語では「人工知能」と訳されます。簡単に言うと、コンピュータが人間のように学習し、判断したり、問題解決したりできる技術のことです。AI は、人間が行うような推論や意思決定をコンピュータで再現し、自動化することを目的としています。>

これが AI に「AI とは何ですか」と尋ねた答えです。私たちの暮らしの中に今、最も深く入り込んでいるのは、スマートフォンと言うよりも、この人工知能なのかも知れません。

聖書の時代、人はエルサレム神殿を詣で犠牲を捧げ、助けを神に祈りました。そしてヘブル語聖書の言葉を、祭司たちにより取り次いでもらいました。また安息日には会堂に集まり、ヘブル語聖書の朗読を聴き、その説き明かしを受けました。そこで行われていたのは、「神のことば」という目には見えないものを学び、毎日の暮らしの中で、様々な事柄を判断して、問題を解決していく作業です。

そこで律法が重んじられました。特に大事ななのが「何を食べるか」でした。いつどこで、だれと、なにを食べるか。そしていつ、なにを食べてはならないか。食事は人間にとって、毎日欠かせない大切な生きるための行いです。世界中多くの教えが今もこの食物規定を固く守っています。

イエスさまの教会がこれほどに、世界中で沢山の人たちに受け入れられている理由の一つは、この食べ物の決まりごとを、主が完全に打ち破られたからです。

「何をいつ食べてもかまわない。ただ神さまを愛して、隣り人を愛する。それが何よりも大切なことだ。」とイエスさまは言われます。

イエスさまの愛は、ご自分のすべてを与える愛です。主は言われます。「これは私のからだです。これを食べてあなたがたは、永遠のいのちを生きなさい」そのようにして生きて、そのようにして死ぬことこそが、「神の栄光」です。これこそがすべてを新しくする、初めであり、終わりです。

私たちルターの教会は聖書のみことばの中に、このイエスさまがおられると信じます。それでは聖書の中には、何が書かれているのでしょうか。

熱心なクリスチャンは迷った時には、いつも聖書に道を尋ねました。昔からある方法は、聖書を手に持って祈りながら、ぱっと開いてみる事です。そこで目に飛び込んできた文字を、祈る人に向けて語りかける、神さまのみことばとして、感謝して受け取るのです。

このよう聖書は「神のみことば」として、長い間ずっと皆から大切にされてきました。聖書にはヘブライ人の歴史と祈りが詰まっています。ですから私たちは、この聖書を学び続けます。

今日は大宮教会のユースの仲間たちと、少し駆け足で聖書の学びを行います。手始めにルーテル学院大学の学長だった江藤直純先生直「聖書 66 巻数え歌」をお伝えします。この歌をおぼえるとあら不思議、ぱっと思った通りに聖書箇所が

開けるようになります。

そしてゆっくりと、旧約聖書の学びをいっしょにはじめたいと思います。どれほど AI が発達しても、魂の救いはイエスさまの御言葉の中にこそあります。

「互いに愛し合う」この最も難しいと感じる行いも、イエスさまに従うことで、必ず道が開かれます。すべてこの世界の命の中には、神さまの愛が輝いています。恐れず大胆に、イエスさまの愛を信じて、互いに愛し合う世界を目指しましょう。

これからも聖書が、いつも私たちの歩みと共にあって、祝福がありますように。

イエスさまのお名前によって祈ります。アーメン